

NCR2018 の基礎知識①

「FRBR モデル」

NPO法人大学図書館支援機構 岡田智佳子

参考図書 その1



『日本目録規則 2018年版』
木村麻衣子編著
(JLA図書館実践シリーズ, 47)

日本図書館協会, 2022.1
ISBN978-4-8204-2113-9

定価 1,600円+税

NCR2018公式読本

参考図書 その2



情報資源組織演習 三訂版
小西 和信・田窪 直規 編著
飯野 勝則・岡田 智佳子・蟹瀬 智弘・川村 敬一・小林 康隆・
鴫田 拓哉・原田 智子・松井 純子・渡邊 隆弘 著
(現代図書館情報学シリーズ 10)

樹村房, 2021.7
ISBN978-4-88367-350-6
定価 2,100 円＋税

NCR2018及びCAT2020に対応

1. FRBRとは

目録規則と目録法

「目録規則 (cataloging rules)」

- 書誌情報に関する規則
- 例: 「日本目録規則」

「目録法 (cataloging)」

- 目録規則による書誌データや、各図書館の規則に基づく所蔵データの記録・記載の方法や考え方などの総体
- 記述目録法と主題目録法とがある
- 目録法のツール例: 目録規則、分類表、件名標目表など

目録法の歴史：FRBR以前

	世界	日本
1961	パリ原則	
1965		日本目録規則1965年版
1967	英米目録規則 (AACR)	
1971	国際標準書誌記述 (ISBD)	
1978	英米目録規則第2版 (AACR2)	
1984		NACSIS-CAT開始
1986		目録システム利用マニュアルデータベース編 ☑録情報の基準
1987		日本目録規則1987年版
1988	英米目録規則1988年改訂版	
1993	英米目録規則第2版1988年改訂1993年修正	
1994		日本目録規則1987年版改訂版

目録法の歴史：FRBR以降

	世界	日本
1997	書誌レコードの機能要件 (FRBR)	新CAT開始
2002	英米目録規則第2版2002年改訂版	
2005		日本目録規則1987年版改訂2版追加及び修正
2006		日本目録規則1987年版改訂3版
2009	国際目録原則覚書 (パリ原則の改訂) 典拠データの機能要件 (FRAD)	
2010	Resource Description and Access (RDA) 主題典拠データの機能要件 (FRSAD)	
2017	IFLA図書館参照モデル (IFLA LRM)	
2018		日本目録規則2018年版
2020	RDA 3R公式版	CAT2020

FRBRとは

- ”Functional Requirements for Bibliographic Record“ の略称
- 読み方「ファーバー」
- 日本語訳「書誌レコードの機能要件」(1997)
(<https://www.ifla.org/files/assets/cataloguing/frbr/frbr-ja.pdf>)
- 国際図書館連盟 (IFLA) から出された 新しい目録法の報告書 (× 目録規則)
- 特徴「曖昧だった書誌レコードに求められる要件を明確にしたこと」「図書館(員)側だけでなく利用者側の観点からのモデル」
- 1990年代後半以降の目録規則の多くはFRBRの影響を強く受けている

FRBR以前はパリ原則に基づく古い規則が主流で

- ・対象資料の多様化
- ・目録の作成・提供環境の電子化
- ・インターネットによる情報流通の変化...等

へ対応できずにいた

FRBR Family と IFLA LRM

- FRBR (Functional Requirements for Bibliographic Record)
 - 「書誌レコードの機能要件」
- FRAD (Functional Requirements for Authority Data)
 - 「典拠データの機能要件」
- FRSAD (Functional Requirements for Subject Authority Data)
 - 「主題典拠データの機能要件」



IFLA図書館参照モデル: IFLA LRM

RDAとは

- ”Resource Description and Access“の略称
- 読み方「アールディーエー」
- 日本語訳「資源の記述とアクセス」
- FRBRの概念モデルを基盤とするAACR2の後継の目録規則

当初は“AACR3”の名称で検討されていたが・・・

“AACR3”ではなく“RDA”となった訳

1. × Anglo American

国際化、インターネットの普及により“Anglo American”という意味がなくなった。多言語が当たり前。

2. × Cataloging rule

平易な用語、ユーザーフレンドリーなレイアウトにし、図書館関係者以外に使いやすくすること

3. × AACR3としなかった理由

AACR2とは大きく異なる「デジタル環境に適応したフレキシブルな規則」となるため

RDA: Toolkit



<https://www.rdatoolkit.org/>

- ウェブサイト(有料)上で閲覧する形式の目録規則
- 頻繁に改訂される
- 最新版はILFA LRMに準拠した「RDA 3R」と呼ばれるもの

(参照: “RDA Toolkit”. <https://www.rdatoolkit.org/> (参照2024-09-10))

目録法の歴史：FRBR以降

	世界	日本
1997	書誌レコードの機能要件 (FRBR)	新CAT開始
2002	英米目録規則第2版2002年改訂版	
2005		日本目録規則1987年版改訂2版追加及び修正
2006		日本目録規則1987年版改訂3版
	国際目録原則覚書 (パリ原則の改訂) 典拠データの機能要件 (FRAD)	
2010	Resource Description and Access (RDA) 主題典拠データの機能要件 (FRSAD)	
2017	IFLA図書館参照モデル (IFLA LRM)	
2018		日本目録規則2018年版
2020	RDA 3R公式版	CAT2020

FRBR、RDA、NCR2018の関係



※NCR2018が相互運用性を担保しているのは旧版のRDA

2. FRBR概念モデル

FRBRの概念モデル

- 書誌的世界を3つのグループに属する11の実体とその関連で分析

実体

主要な関心対象を表す単位

実体関連分析

属性

実体の特性 ≡ 書誌的事項

関連

実体間の関係性 ≡ リンク

FRBRの概念モデル

書誌に求められる要件

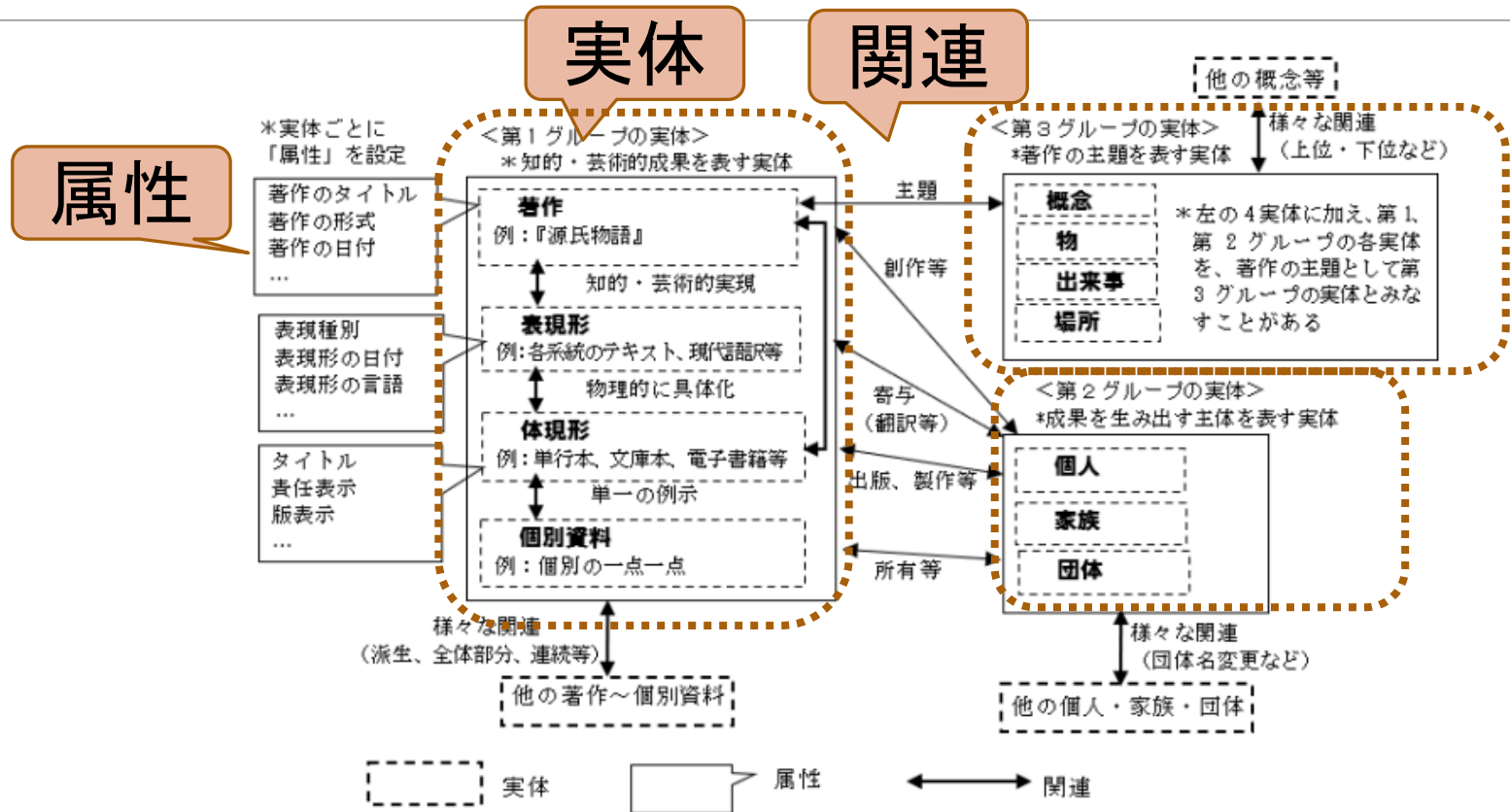
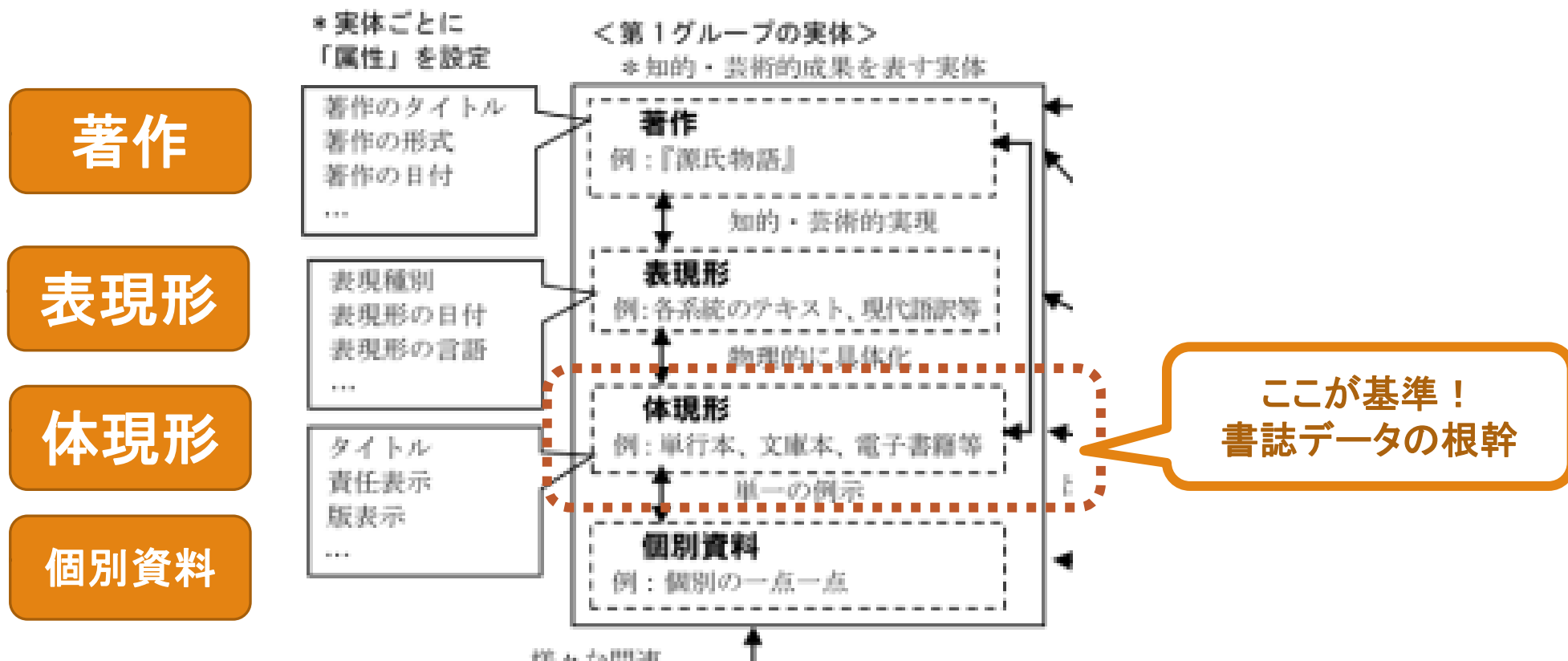


図 0.3 本規則が依拠する概念モデルの概要

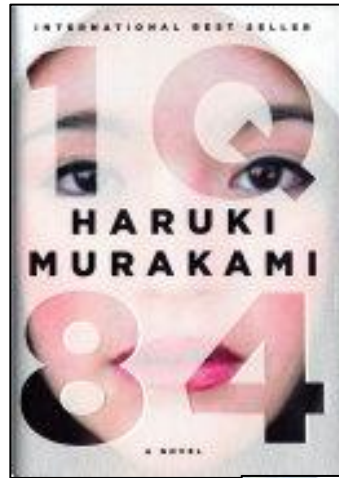
(出典: 日本図書館協会目録委員会. "日本目録規則2018年版". <https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018/>, (参照2024-09-10))

第1グループの4実体



(出典：日本図書館協会目録委員会. “日本目録規則2018年版”. <https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018/>, (参照2024-09-10))

例をもとに考えていきましょう



ケーススタディ① 冊子体 翻訳本

日本語
翻訳本



星の王子さま
サン＝テグジュペリ [著]；管啓次郎訳
(角川文庫, 16896)
角川書店，角川グループパブリッシング (発売),
2011.6

オリジナル
初版本

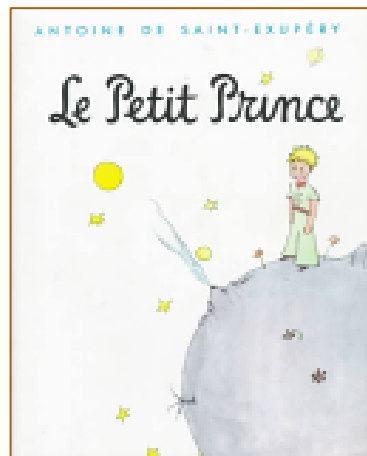


Le petit prince
Antoine de Saint-Exupéry ;
avec dessins par l'auteur
Reynal & Hitchcock, c1943

ケーススタディ① 「体現形」は何か？

体現形＝「キャリアに固定された単位」→書誌作成対象

図書やCDといった
「モノ」のこと



Reynal & Hitchcockから刊行された
Antoine de Saint-Exupéryが書いた
” Le Petit Prince”



角川書店から「角川文庫」の
1冊として刊行された
管啓次郎による日本語訳「星の王子さま」

ケーススタディ① 「個別資料」は何か？

体現形＝「個別の1点1点」→所蔵データ



資料ID	請求記号
3130004009	081 Ka183 Sa-3-1

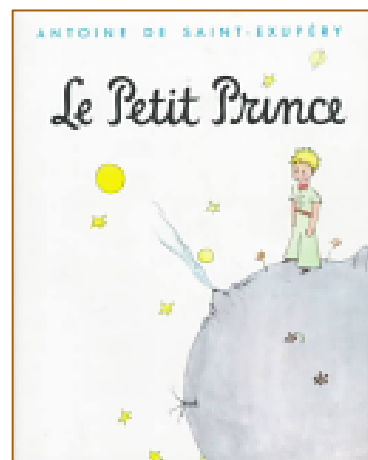
大学図書館が所蔵する資料ID3130004009の
角川文庫の管啓次郎による日本語訳「星の王子さま」

ケーススタディ① 「著作」は何か？

著作＝「知的・芸術的創作物の単位」 ≒ アイデア的なもの

→ まとめると便利 → 典拠コントロールの対象

「アイデア(創作物)」の単位なので
①誰のアイデアか？ → 創作者
②どのアイデアか？ → 優先タイトル
で区別する



Antoine de Saint-Exupéryが書いた
” Le Petit Prince”という作品

一番わかりにくい

ケーススタディ① 「表現形」は何か？

表現形＝「文字・音声等で表現された単位」

＝ 体現形の手前の状態

＝ 著作と体現形の間

一つの著作に複数の表現(の)形がある前提で、他の表現(の)形とどう違うか？を区別するためのもの

図書館システム内でデータの割り当てがない→省略可

オリジナルも
表現形の一つ



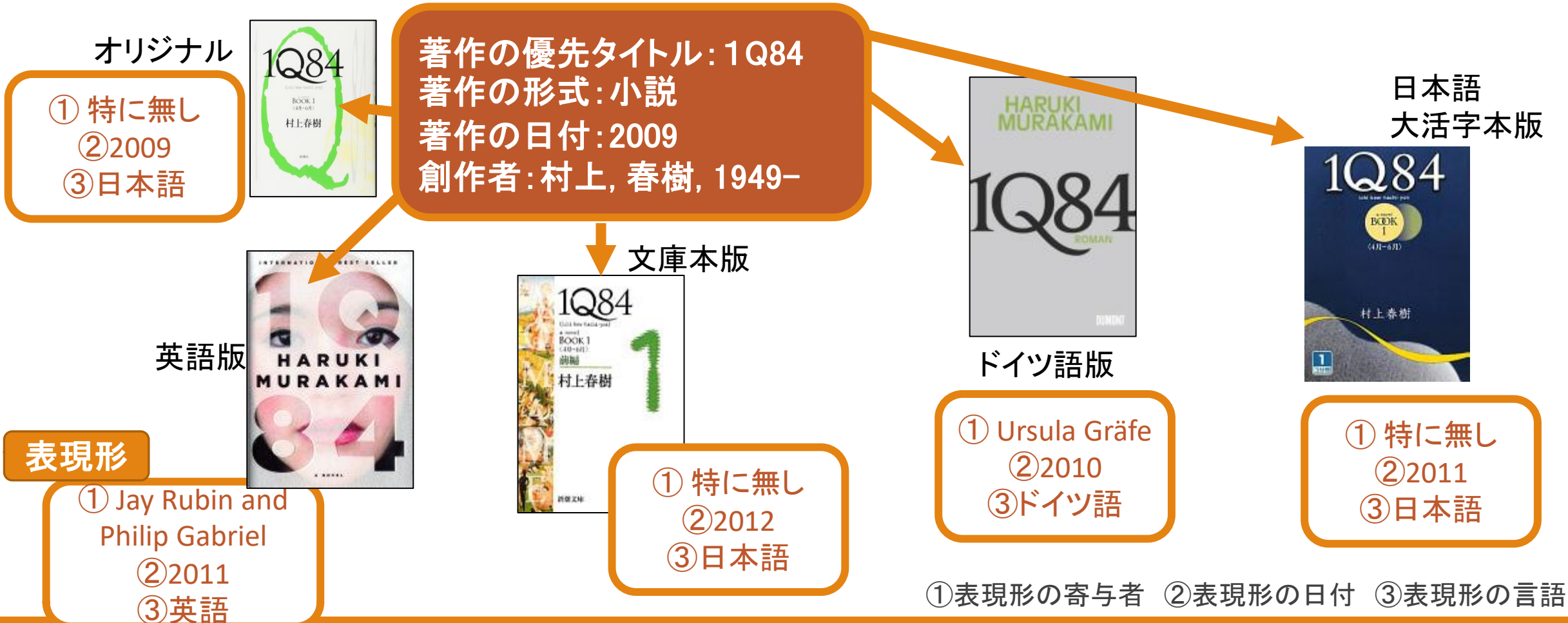
” Le Petit Prince”
の原テキスト



翻訳本は
・ 何語の翻訳か？
・ 訳者は誰か？

管啓次郎による
” Le Petit Prince”
の日本語訳

ケーススタディ② 同一著作のもの



ケーススタディ③ 著作が異なるもの

「君の臓腑を食べたい」 住野よるの小説 メディア展開

小説・文庫本



優先タイトルは全て同じ

漫画・コミックス(冊子)

実写映画(DVD)

アニメ映画(ストリーミング)

著作

住野よる(著)

桐原いづみ(画)
住野よる(著)

月川翔(監督)
吉田智子(脚本)

牛嶋新一郎(監督・脚本)
岡 勇一(キャラクターデザイン・総作画監督)

表現形

①挿絵者, 装丁者など
②テキスト
③日本語

①装丁者など
②テキスト・静止画
③日本語

①演者, 俳優など
②二次元動画
③日本語

①アニメーター, 声優など
②二次元動画
③日本語

①表現形の寄与者 ②表現種別 ③表現形の言語

ケーススタディ④ 展開のないもの



著作

著作の優先タイトル: 帝国の構造
著作の形式: 評論
著作の日付: 2023
創作者: 柄谷, 行人

表現形

表現種別: テキスト
表現形の言語: 日本語
表現形の日付: 2023

体現形

本タイトル: 帝国の構造
本タイトルに関連する責任表示: 柄谷行人
出版者: 岩波書店 出版に関する日付: 2023.11.17
ISBN: 9784006004705
シリーズの本タイトル: 岩波現代文庫 ...

個別資料

資料ID, 請求記号など...

参考

- 日本目録規則2018年版データ作成事例

<https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/ncr2018/tabid/936/Default.aspx>

https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/NCR2018_datasample.xlsx

第2グループ

「第2グループ」=成果物を作る主体を表す実体

→まとめると便利→典拠コントロールの対象

〈第2グループの実体〉

* 成果物を作る主体を表す実体

個人 (person)

団体 (corporate body)

家族 (family)



星の王子さま

サン=テグジュペリ [著]; 管啓次郎 訳

(角川文庫, 16896)

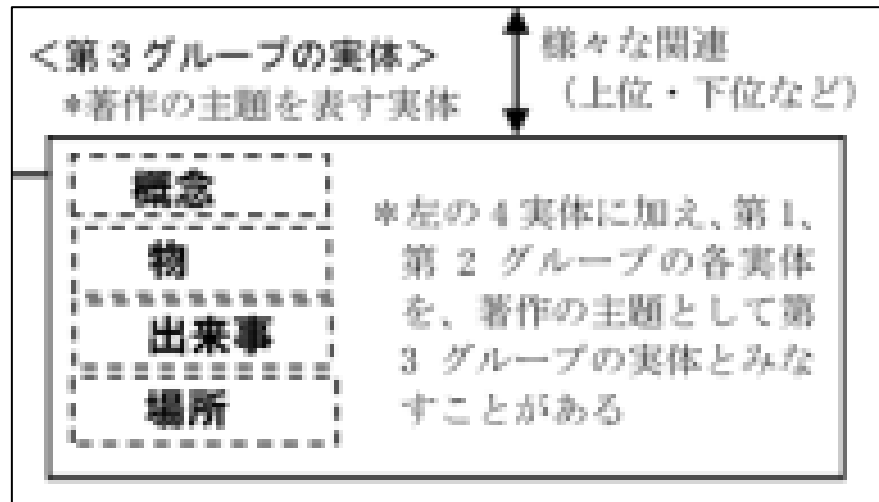
角川書店, 角川グループパブリッシング (発売), 2011.6

個人

団体

第3グループ

「第3グループ」=著作の主題を表す実体

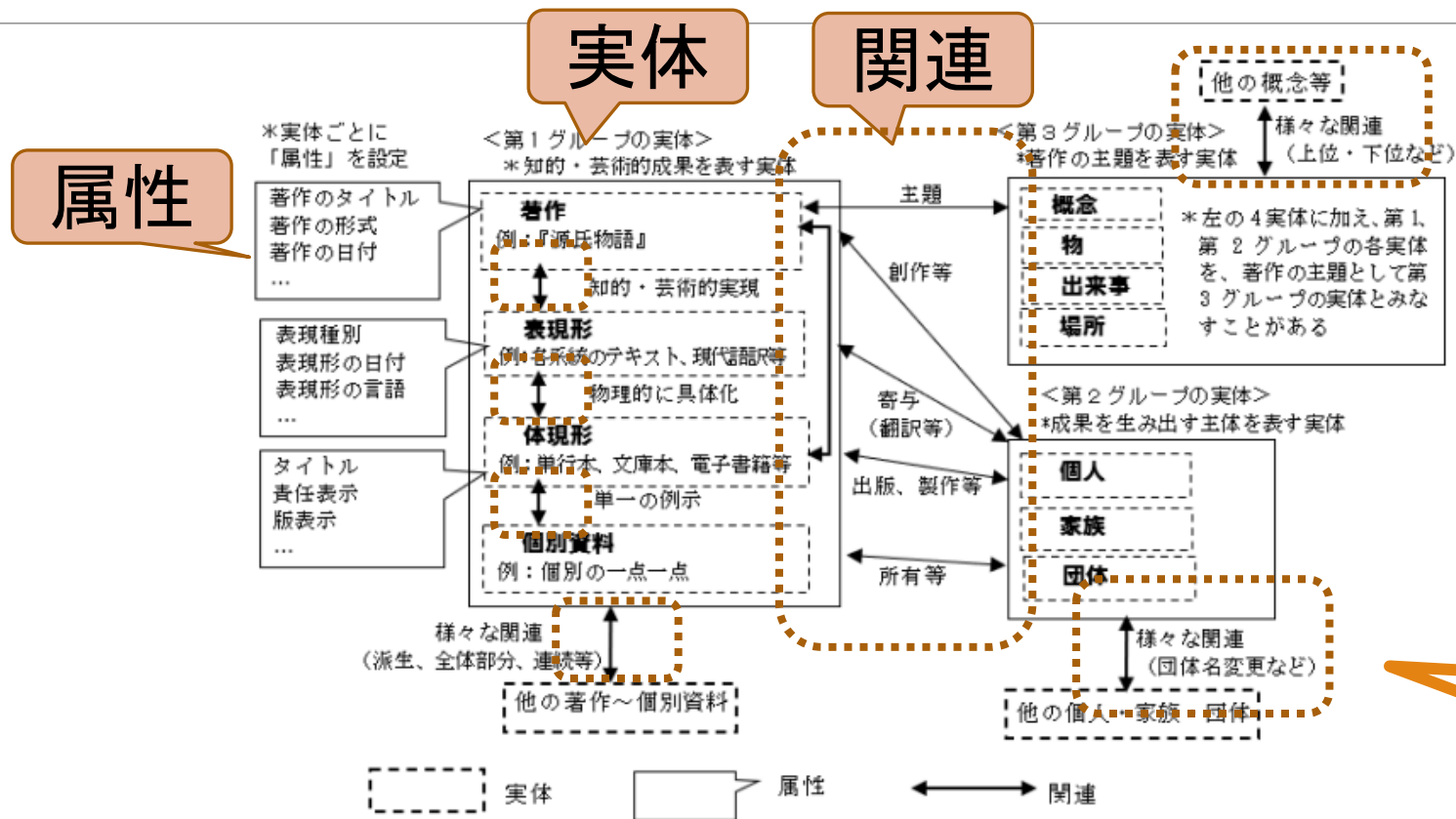


- セクション4 概念、物、出来事、場所
 - 第9章 概念 (保留)
 - 第10章 物 (保留)
 - 第11章 出来事 (保留)
 - 第12章 場所

「第12章 場所」を除き未作成
→今後も作成されない

FRBRモデル 関連

実体どうしの間には存在する様々な関係性のこと



実体ごとに色々な「関係」がある

図 0.3 本規則が依拠する概念モデルの概要

(出典: 日本図書館協会目録委員会. “日本目録規則2018年版”. <https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018/>, (参照2024-09-10))

<課題 解答・解説>

説明のあとに課題の時間を設けています。
各自で取り組んでいただいた後に、講師が解答・解説を行います。個別の添削を行うこともあります。

課題例

- ・課題資料をFRBRモデルで分析する
- ・CATのフィールド名とFRBRモデルとの対応を答える